

15 キノコ

1. 菌類（キノコ）概要

菌類（キノコ）は分類学的には菌界という生物群に属し、この界にはキノコのほかにカビや酵母菌などが含まれる。

菌類のうち、胞子が交配し、分岐や結合を行って菌糸となり、やがて菌糸の固まりである原基を組織し、そこから子実体（狭義のキノコ）を形成して胞子を生じるものがあるが、この子実体が肉眼で識別できるような大きさになる仲間を総称して「キノコ」と呼んでいるのである。

かつて菌類は植物界に含まれていたが、葉緑素を持たないことや生殖方法などが異なることから、現在では植物界とは別の界に区分されている。

キノコの種数は、日本で5,000種以上あると推測されているが、学術的に分類されているのは2,000種程度にとどまっている。このように分類が遅れているのは、キノコの分類を研究する者が少ないうえに、子実体の発生場所が不確定なことや、発生期間が数日と短い種が多いことから、分類の研究に膨大な時間とコストを要するためである。

その一方では、そのような状況を少しでも打破しようと全国各地で野生きのこの同好会などがキノコの発生状況調査やデータ収集等に積極的に取り組むようになってきた結果、各地から新種のキノコが発表される事例も少しずつではあるが、増えてきた。

三重県においても、「みえ・菌輪の会」、「きのこウォッチングクラブMIE」の2つの野生きのこの同好会が中心となり、県内の野生キノコの発生状況等の調査やデータ収集を行っている。三重県は、南北に長く、海岸から奥深い山塊まで、多様な自然環境に恵まれた県であり、気候条件も地域によって大きく異なることから、野生キノコにとっても多様な生育環境となっている。そのため、県内を大きく二つに分けて、四日市市以北を「みえ・菌輪の会」、鈴鹿市以南を「きのこウォッチングクラブMIE」が主に調査を実施した。

なお、特に重点的な調査が必要な箇所と考えられる場所においては、2つの同好会が合同で調査を実施した。

県内のキノコの種数は、少なくとも1,000種以上あるものと推測されるが、未発表データの整理や生育地調査の結果、現在までに確認された種数は約500種となっている。

キノコの生活形態はとくに植物と動物の生活と深く関わり、腐生（遺体や糞の分解）だけでなく、他の生物の生活史に密接に結びついた寄生や共生という特異な関係を結んでいるものも多い。

最近では、異常気象や松枯れ、ナラ枯れ（ミズナラ、コナラ、シイ・カシなど）による生育環境の変化、土地開発による松林や広葉樹林の減少、里山の放置による多様な自然環境の劣化、自然災害や海岸整備などによる海岸の砂地の減少や環境の変化、更には山間部における土砂流出などにより、生育地が消滅するなど、キノコを取りまく環境はRDB2005調査時よりさらに厳しくなっていることが、今回の調査により明らかとなった。

2. 調査の概要と結果

RDB2005掲載種68種について、2013年11月から2014年10月までの1年間、現地調査を行った。調査対象種のほとんどは、春から秋にかけて子実体が発生するため、現地調査は主に2014年4月から2014年10月に実施した。

調査は、季節や林相に応じ、樹木層や子実体の発生が確認できるタイミングをはかり実施した。また、県内の野生きのこの同好会「みえ・菌輪の会」、きのこウォッチングクラブMIEの例会、三重県民の森や上野森林公園のきのこ観察会を活用し、合わせて月に5回程度実施した。その他、きのこ同好会のメンバーの観察記録や個人の未発表データも収集し、検証した。

しかし、近年の異常気象、梅雨時の少雨、秋の高温などの影響からか、本来なら子実体の発生が確認できるタイミングで行った調査でも、発生が確認できなかった種も多かった。

調査結果の評価にあたり、三重県のチェックシートを用い、生育地点数に生育環境の特殊性、最新の知見を加味して総合的に判断した。また、一般的にキノコ狩りの対象種であるいわゆる食用キノコ等については、人為的採取圧についても考慮した。

3. 絶滅危惧種の概要

その結果、今回の掲載種は65種となり、各種の評価として、絶滅のおそれのある種は42種（絶滅危惧IA類（CR）3種、IB類（EN）18種、II類（VU）21種）となり、RDB2005の35種から7種増加した。準絶滅危惧種（NT）は9種、情報不足種（DD）は14種となった。また、調査が進み、現時点においては絶滅のおそれはない（LC）と判断された2種、検討対象から除外した2種をリストから削除した。

絶滅危惧IA類（CR）にランクアップしたクサギムシタケ（EN→CR）は、クサギに削孔するコウモリガ類

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

の幼虫に寄生する特殊な生態を持ち、県内で確認されている唯一の生育地でクサギが伐採され、生育環境が失われたことにより、絶滅のおそれが高まったと考えられる。また、全国的にも希少種で、環境省第4次レッドリストでも絶滅危惧種I類 (CR+EN) に指定されている。ホンシメジ (VU→CR)は、主にアカマツと広葉樹の混交林に生育するが、マツ材線虫病によるアカマツの減少などにより、近年生育の確認ができなくなってきており、絶滅のおそれが高まったと考えられる。ホウキタケ (VU→CR)についても、アカマツの減少などにより生育環境が失われつつあり、近年生育の確認ができなくなってきていることから絶滅のおそれが高まったと考えられる。

絶滅危惧IB類にランクアップしたヒメベニテングタケ (VU→EN) は、生育地のブナ・ミズナラ林でカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害が拡大しており、今後著しく生育環境が劣化していくと推測される。また、イボセイヨウショウロ (DD→EN)は、新たな生育地の報告がなく、これまでに確認した生育地での継続的な生育が確認できなくなっているため、絶滅の恐れがあると考えられる。

様々なキノコの生育に適している里山林は、放置されている場所が多く、キノコの生育環境が著しく劣化しているため、継続的な生育が期待できない状況が続いている。アカマツ林に依存する種では、前述のホンシメジ、ホウキタケのほか、クロカワ (VU→EN)、アオロウジ (VU→EN)、マツタケモドキ (VU→EN) のランクアップと、シモコシ (DD→VU)のランク付けを行った。また、主に広葉樹林で生育する種では、コウタケ (NT→VU) のランクアップと、オオオニテングタケ (DD→VU)、バカマツタケ (DD→VU)、シロマツタケモドキ (DD→VU)、シロテングタケ (DD→NT)、シロツルタケ (DD→NT)、ニセマツタケ (DD→NT)、クルミタケ (DD→VU) のランク付けを行った。

なお、古くから食用として親しまれてきたホンシメジ、ホウキタケ、クロカワ、コウタケなどの種をいずれもランクアップすることとなったが、このことから、古来より人間生活に直結した里山に生息する多くの種が絶滅の危機に瀕していることが示唆されている。

また、自然災害や海岸整備などによる環境の悪化が危ぶまれる海浜生のキノコでは、ナガエノホコリタケ (DD→VU)と、アバタケシボウズタケ (VU・新規) について、新たなランクに位置づけた。

その一方では、調査を行った結果、新たな生育地が確認されるなどの情報が得られた7種についてランクダウンを行った。

しかし、キノコの発生は不安定であり、情報不足種の調査が進むことも考えれば、今後これらのカテゴリーは変化する可能性が残されている。

新たな知見の蓄積により、絶滅のおそれがなくなったと判断した種は、キクラゲ (VU→LC)、アカチャツエタケ (DD→LC) の2種となった。この2種については、新たな生育地の確認に加え、安定的な生育が確認できており、個体数も十分であることが推測できた。ヤコウタケ (前回DD→対象種から除外) については、生育確認はできていないが、本県の環境は当該種の本来の生育環境でないと判断した。過去に生育が確認されたことがあるが、何らかの条件で偶発的、かつ単発的にキノコが発生したものと推測し、追跡調査は不要と判断した。シロタマゴテングタケ (前回DD→対象種から削除) は学術的な分類に曖昧な点があることが判明したため、リストから除外した。

近年、菌類に対するDNA解析研究が進み、分子系統のデータに基づいた新しい分類の考え方が取り入れられ、これまでの形態的特徴による分類体系に大きな変更があった。そこで、本文では最新の知見に基づき、所属、学名の変更を行った。

和名、学名、種の配列、種の形態的特徴、および分布概要は、「日本産菌類集覧」(勝本, 2010)、「増補改訂新版 日本のきのこ」(今関ら, 2011)、「原色日本新菌類図鑑 I・II」(今関ら, 1987・1989)を、冬虫夏草については冬虫夏草生態図鑑 (日本冬虫夏草の会, 2014) をそれぞれ参考にした。また、環境省のRDB資料も参考にした。

文 献

今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 保育社, 大阪, 325 pp.

今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑 (II). 保育社, 大阪, 315 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄・坂健太郎・細矢剛・長澤栄史. 2011. 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 639 pp.

日本冬虫夏草の会. 2014. 冬虫夏草生態図鑑. 誠文堂新光社, 東京, 303 pp.

(三輪秀子・谷口雅仁・清田卓也)

除外種

「三重県レッドデータブック2005 植物・キノコ」掲載種のうち、今回の改訂により低懸念（LC）と判定された種、及び評価対象から除外した種とその理由は以下のとおりである。

（表15-1）改訂により低懸念（LC）となった種

No.	目名	科名	和名	改訂前 県ランク	除外理由
1	シロキクラゲ	シロキクラゲ	キクラゲ	VU	調査が進み、新たな産地が増えたため。
2	ハラタケ	ツキヨタケ	アカチャツエタケ	DD	調査が進み、新たな産地が増えたため。

（表15-2）改訂において評価の対象から除外した種

No.	目名	科名	和名	改訂前 県ランク	除外理由
1	ハラタケ	ラッシタケ	ヤコウタケ	DD	本来の生育環境でないと考えられるため。
2	ハラタケ	テングタケ	シロタマゴテングタケ	DD	同定に疑義があるため。

キノコレッドリスト

絶滅危惧IA類（CR）

目名	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
ハラタケ	シメジ	ホンシメジ(ダイコクシメジ)	<i>Lyophyllum shimeji</i>		698
ラッパタケ	ラッパタケ	ホウキタケ(ネズミアシ)	<i>Ramaria botrytis</i>		698
ポタンタケ	ノムシタケ	クサギムシタケ	<i>Cordyceps hepialidicola</i>	CR+EN	698

絶滅危惧IB類（EN）

目名	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
ハラタケ	ハラタケ	ウロコケシボウズダケ	<i>Tulostoma squamosum</i>		699
ハラタケ	テングタケ	ヒメベニテングタケ	<i>Amanita rubrovolvata</i>		699
ハラタケ	ラッシタケ	シイノトモシビタケ	<i>Mycena lux coeli</i>		699
ハラタケ	シメジ	ブナシメジ	<i>Hypsizigus marmoreus</i>		700
ハラタケ	ツキヨタケ	ツキヨタケ	<i>Omphalotus japonicus</i>		700
ハラタケ	ガマノホタケ	ムキタケ	<i>Sarcomyxa serotina</i>		700
ハラタケ	キシメジ	マツタケ	<i>Tricholoma matsutake</i>	NT	701
ハラタケ	キシメジ	マツタケモドキ	<i>Tricholoma robustum</i>	NT	701
スッポンタケ	アカカゴタケ	カゴタケ	<i>Ileodictyon gracile</i>		701
タマチョレイタケ	シワタケ	ブナハリタケ	<i>Mycoleptonoides aitchisonii</i>		702
タマチョレイタケ	ハナビラタケ	ハナビラタケ	<i>Sparassis latifolia</i>		702
ベニタケ	ニンギョウタケモドキ	アオロウジ(アワビタケ)	<i>Albatrellus caeruleoporus</i>		702
ベニタケ	ベニタケ	ルリハツタケ	<i>Lactarius subindigo</i>		703
イボタケ	マツバハリタケ	クロカワ(ロウジ)	<i>Boletopsis leucomelaena</i>	DD	703
イボタケ	マツバハリタケ	マツバハリタケ	<i>Bankera fuligineoalba</i>	DD	703
ユーロチウム	ツチダンゴ	コウボウフデ	<i>Pseudotulostoma japonicum</i>	DD	704
チャワンタケ	セイヨウシヨウロ	イボセイヨウシヨウロ	<i>Tuber indicum</i>		704
ポタンタケ	バツカクキン	クモタケ	<i>Nomuraea atypicola</i>		704

絶滅危惧II類（VU）

目名	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
ハラタケ	ハラタケ	ドクカラカサタケ	<i>Chlorophyllum neomastoideum</i>		705
ハラタケ	ハラタケ	アバタケシボウズダケ	<i>Tulostoma adhaerens</i>		705
ハラタケ	ハラタケ	ナガエノホコリタケ	<i>Tulostoma fimbriatum</i> var. <i>campestre</i>	DD	705
ハラタケ	テングタケ	オオオニテングタケ	<i>Amanita macrocarpa</i>		706
ハラタケ	テングタケ	ウスキテングタケ	<i>Amanita orientigemmata</i>		706
ハラタケ	イッポンシメジ	ソライロタケ	<i>Entoloma virescens</i>		706
ハラタケ	シメジ	シャカシメジ(センボンシメジ)	<i>Lyophyllum fumosum</i>		707
ハラタケ	ウラベニガサ	ヒョウモンウラベニガサ	<i>Pluteus pantherinus</i>		707
ハラタケ	キシメジ	シモコシ	<i>Tricholoma auratum</i>	NT	707
ハラタケ	キシメジ	バカマツタケ	<i>Tricholoma bakamatsutake</i>	NT	708
ハラタケ	キシメジ	シロシメジ(ヌノビキ)	<i>Tricholoma japonicum</i>		708

維管束
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ハラタケ	キシメジ	ケショウシメジ	<i>Tricholoma orirubens</i>	—	708
ハラタケ	キシメジ	シロマツタケモドキ	<i>Tricholoma radicans</i>	NT	709
イグチ	オウギタケ	クギタケ	<i>Chroogomphus rutilus</i>	—	709
イグチ	オウギタケ	オウギタケ	<i>Gomphidius roseus</i>	—	709
イグチ	ショウロ	ショウロ	<i>Rhizopogon roseolus</i>	—	710
スッポントケ	アカカゴタケ	イカタケ	<i>Aseröe arachnoidea</i>	—	710
ベニタケ	ニンギョウタケモドキ	ニンギョウタケモドキ	<i>Albatrellus ovinus</i>	NT	710
イボタケ	マツバハリタケ	コウタケ	<i>Sarcodon aspratus</i>	—	711
チャワンタケ	フクロシトネタケ	シャグマアミガサタケ	<i>Gyromitra esculenta</i>	—	711
チャワンタケ	フクロシトネタケ	クルミタケ	<i>Hydnotrya tulasnei</i>	—	711

準絶滅危惧 (NT)

目名	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
ハラタケ	テングタケ	シロテングタケ	<i>Amanita neoovoidea</i>	—	712
ハラタケ	テングタケ	シロツルタケ	<i>Amanita vaginata</i> f. <i>alba</i>	—	712
ハラタケ	フウセンタケ	クリフウセンタケ	<i>Cortinarius tenuipes</i>	—	712
ハラタケ	キシメジ	ニセマツタケ(サツマ)	<i>Tricholoma fulvocastaneum</i>	NT	713
イグチ	ヌメリイグチ	アミタケ(スドオシ)	<i>Suillus bovinus</i>	—	713
スッポントケ	スッポントケ	キヌガサタケ	<i>Dictyophora indusiata</i>	—	713
アンズタケ	アンズタケ	トキイロラッパタケ	<i>Cantharellus luteocomus</i>	—	714
タマチョレイタケ	ツガサルノコシカケ	ブクリョウ	<i>Wolfiporia extensa</i>	—	714
ボタンタケ	オフィオコルジケプス	セミタケ	<i>Ophiocordyceps sobolifera</i>	—	714

情報不足 (DD)

目名	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
ハラタケ	テングタケ	キタマゴタケ	<i>Amanita javanica</i>	—	715
ハラタケ	テングタケ	チャタマゴタケ	<i>Amanita similis</i>	—	715
ハラタケ	キシメジ	オシロイシメジ	<i>Clitocybe connata</i>	—	715
ハラタケ	キシメジ	ドクササコ	<i>Paralepistopsis acromelalga</i>	—	715
ハラタケ	キシメジ	ヒョウモンクロシメジ	<i>Tricholoma pardinum</i>	—	715
ハラタケ	イグチ	タマノリイグチ	<i>Pseudoboletus astraeicola</i>	—	715
ラッパタケ	ラッパタケ	オオムラサキアンズタケ	<i>Gomphus purpuraceus</i>	—	715
スッポントケ	スッポントケ	キイロスッポントケ	<i>Phallus flavocostatus</i>	—	715
ベニタケ	ニンギョウタケモドキ	ヌメリアイタケ	<i>Albatrellus yasudae</i>	VU	715
イボタケ	イボタケ	カラストケ	<i>Polyozellus multiplex</i>	—	716
ビョウタケ	ビョウタケ	クチキトサカタケ	<i>Ascoclavulina sakaii</i>	—	716
チャワンタケ	クロチャワンタケ	エツキクロコップタケ	<i>Urnula craterium</i>	—	716
ボタンタケ	ノムシタケ	アブラゼミタケ	<i>Polycephalomyces nipponicus</i>	—	716
ボタンタケ	オフィオコルジケプス	ウスイロタンボタケ	<i>Ophiocordyceps gracilioides</i>	—	716

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

キノコレッドリスト 新旧対照表

本書に掲載されたキノコレッドリスト（新カテゴリー）と「三重県レッドデータブック2005」に掲載したキノコレッドリスト（旧カテゴリー）との新旧対照表は以下のとおりである。

	改訂前のカテゴリー							種数
	EX	CR	EN	VU	NT	DD	リスト外	
改訂後のカテゴリー	EX							0
	CR			クサギムシタケ	ホンシメジ ホウキタケ			3
	EN	ウロケシボウズダケ ルリハツタケ コウボウフデ		シイノトモシビタケ ブナシメジ ツキヨタケ ムキタケ マツタケ カゴタケ ブナハリタケ ハナビラタケ マツバハリタケ クモタケ	ヒメベニテングタケ マツタケモドキ アオロウジ クロカワ		イボセイヨウシヨウロ	18
	VU		シヨウロ イカタケ	ドクカラカサタケ ウスキテングタケ ソライロタケ シャカシメジ シロシメジ ケシヨウシメジ クギタケ オウギタケ ニンギョウタケモドキ シャグマアマミガサタケ	ヒョウモンウラベニガサ コウタケ	ナガエノホコリタケ オオオニテングタケ シモコシ バカマツタケ シロマツタケモドキ クルミタケ	アバタケシボウズダケ	21
	NT				アミタケ セミタケ	クリフウセンタケ キヌガサタケ トキイロラッパタケ プクリョウ	シロテングタケ シロツルタケ ニセマツタケ	9
	DD					キタマゴタケ チャタマゴタケ オシロイシメジ ドクササコ ヒョウモンクロシメジ タマノリイグチ オオムラサキアンズタケ キイロスッポントケ ヌメリアイタケ カラストケ クチキトサカタケ エツキクロコップタケ アブラゼミタケ ウスイロタンポタケ	14	
	リスト外				キクラゲ		アカチャツエタケ シロタマゴテングタケ ヤコウタケ	4
	種数	0	3	13	19	6	27	1

維管束
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ホンシメジ (ダイコクシメジ) ハラタケ目シメジ科

Lyophyllum shimeji (Kawam.) Hongo

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地がない。

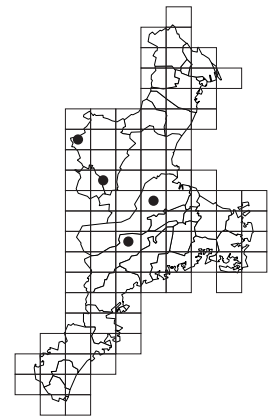
種の概要： アカマツ・コナラ混生林などの地上に散生する。傘は、初め暗色、のちしだいにねずみ色から淡い灰褐色で、初め半球形からまんじゅう型、のち開いて平らとなり、端部は初め内側に強く巻く。柄の基部は、下方が徳利状に膨らむが、十分に成長したものはほとんど上下同大となることもある。

分布： 日本。県内では、松阪市、大台町、伊賀市、名張市で確認されている。

現況・減少要因： 過去に生育が確認されていた県内の生育地は、マツ材線虫病の被害によるアカマツ林の減少や、広葉樹林の放置などにより、生育に適した環境が減少した結果、生育が確認できなくなっている。

保護対策： 生育地の保全、アカマツ林や広葉樹林の保全などが必要である。

文献： 3. 5. 8. 22.



(西井孝文)

ホウキタケ (ネズミアシ) ラッパタケ目ラッパタケ科

Ramaria botrytis (Pers.) Ricken

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地がない。

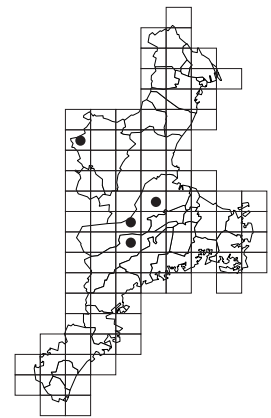
種の概要： アカマツ・コナラ混生林などの地上に列状に群生する。柄は、白色で、丈夫な円柱状から上部にいくに従い枝状に分かれ、先端部は、淡紅色から淡紫色で多数の小枝状に分かれる。

分布： 北アメリカ、ヨーロッパ、ヒマラヤ、日本。県内では、松阪市、大台町、伊賀市で確認されている。

現況・減少要因： 過去に生育が確認されていた県内の生育地は、マツ材線虫病の被害によるアカマツの枯死などにより、生育に適した環境が減少した結果、生育が確認できなくなっている。

保護対策： 生育地の保全、アカマツ林や広葉樹林の保全などが必要である。

文献： 4. 5. 8.



(古川未来)

クサギムシタケ ボタンタケ目ノムシタケ科

Cordyceps hepialidicola Kobayasi & Shimizu

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：CR+EN

選定理由： 既知の生育地点数は1以下であり、安定した生育地がない。

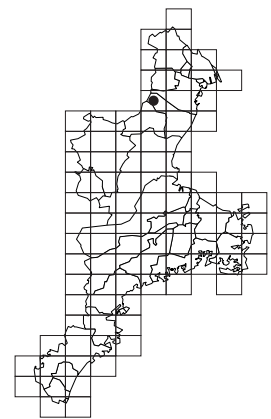
種の概要： 落葉小高木のクサギ内に生息するコウモリガ類幼虫に寄生し、生木の根元に近いコウモリガ類の食孔から子実体が発生する。子実体は、淡黄色で、こん棒状不定形、単一もしくは複数に分岐する。子のう殻は、埋生型で、孔口は表面にわずかに突出する。

分布： 日本 (埼玉県、京都府、兵庫県、島根県、宮崎県、三重県)。県内では、亀山市で確認されている。

現況・減少要因： 過去に生育が確認されていた亀山市の生育地は、クサギが伐採されたため、2006年以降生育が確認されていない。

保護対策： 生育地の保全、生育環境の保護などが必要である。

文献： 8. 12. 15.



(谷口雅仁)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ウロコケシボウスタケ

ハラタケ目ハラタケ科

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

Tulostoma squamosum J.F.Gmel.

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地がない。

種の概要： 石灰岩上の堆積土などに散生する。幼菌時は類球形で、成熟に伴い柄を伸ばす。頭部は、類球形で頂部に管状の孔口が隆起し、表面に剥落しやすいいぼ状の突起がある。柄は、上部に向かって細まり、ささくれ状からねじれた繊維状となる。

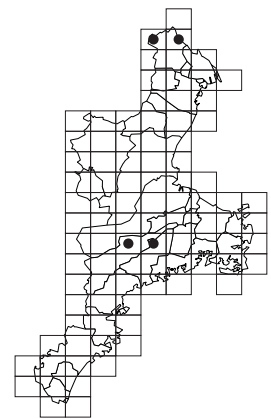
分 布： ヨーロッパ、日本（愛知県、京都府、熊本県、三重県など）。県内では、いなべ市、大台町、大紀町で確認されている。

現況・減少要因： 過去に生育が確認されたいなべ市藤原町、大台町、大紀町の生育地は、いずれも石灰岩上の堆積土から子実体が発生しており、いなべ市藤原町の生育地では、土石流の被害により生育環境が消失した可能性がある。他の生育地でも生育環境の変化により、継続的な生育は確認されていない。

保護対策： 生育環境の保全などが必要である。

特記事項： 全国的に希少種とされている。

文 献： 5, 8, 9, 20, 21.



(谷口雅仁)

ヒメベニテングタケ

ハラタケ目テングタケ科

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

Amanita rubrovolvata S. Imai

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地がない。

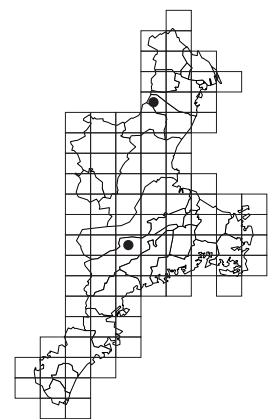
種の概要： ブナ、ミズナラ、シイ林などの地上に単生または散生する。傘は、鮮赤色から朱色で同色の細かいいぼが散在し、縁部は黄色を帯び、放射状の溝線があり、はじめ卵形、のちまんじゅう形から平らに開く。柄の基部は、赤色粉状、あるいはいぼ状のつばの破片が不完全な輪状に残り、塊茎状に膨らみ、上部には淡黄色で膜質のつばがある。

分 布： 東・東南アジア、日本（本州以南）。県内では亀山市、大台町で確認されている。

現況・減少要因： 過去に生育が確認されていた県内の生育地は、いずれも継続的な生育が確認されていない。今後、森林伐採等により、生育適地が消滅する可能性がある。

保護対策： 生育地の保全、生育環境の保全などが必要である。

文 献： 3, 5, 7, 8, 22.



(三輪秀子)

シイノトモシビタケ

ハラタケ目ラッシタケ科

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

Mycena lux-coeli Corner

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地がない。

種の概要： シイの腐朽木に束生、群生する。傘は、帯緑褐色で、微粉状で条線を有し、鐘形から縁部が反り返ったまんじゅう形となる。ひだは、白色で緑褐色の縁取りがある。柄は、淡色で、基部が白色疎毛に覆われる。子実体は、強い発光性がある。

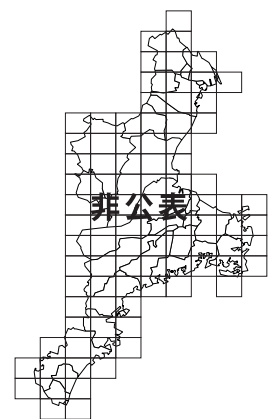
分 布： 日本（東京都八丈島、兵庫県、和歌山県、大分県、宮崎県、三重県など）。県内では、紀州地域で確認されている。

現況・減少要因： 紀州地域の生育地は、スダジイの老木が群生する湿度の高い海岸部の照葉樹林であるが、スダジイ林の規模は非常に小さく、安定した生育地とはいえない。

また、近年では、生育地が「光るきのこ」の発生場所として知られるようになってきたため、興味本位な人為的採取圧等により、生育環境が消失することが危惧される。

保護対策： 生育地の保全、スダジイ林の保全などが必要である。

文 献： 8, 22.



(清田卓也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ブナシメジ

ハラタケ目シメジ科

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：

Hypsizigus marmoreus (Peck) H.E. Bigelow

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地がない。

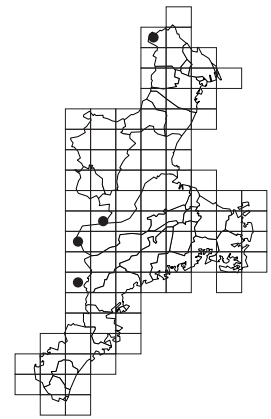
種の概要： ブナなどの枯木の材上に群生する。傘は、類白から帯褐クリーム色で、不明瞭なやや濃色の大理石模様を呈し、円形または一方にかたよった不正形となる。ひだは、類白色で、柄は、傘とほぼ同色ないしほとんど白色で、上下同大または下方が紡錘形となり、根もとに軟毛がある。

分布： 北半球温帯以北、日本（中部以北）。県内では、いなべ市、津市、松阪市、大台町で確認されている。

現況・減少要因： 県内の生育地は、いずれも限られたブナ林地帯であり、継続した生育は確認されていない。なお、生育地で森林開発が計画されるなど、今後、生育地が消失する可能性がある。

保護対策： 生育地の保全、ブナ林の保全などが必要である。

文献： 3. 5. 8. 22.



(西井孝文)

ツキヨタケ

ハラタケ目ツキヨタケ科

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：

Omphalotus japonicus (Kawam.) Kirchm. & O.K. Mill.

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地がない。

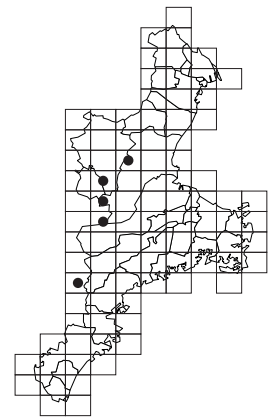
種の概要： ブナの枯木の材上に多数重なりあって発生する。傘は、紫褐色から暗褐色、多少蠟状の光沢を帯び、半円形からじん臓形となる。ひだは、淡黄色のち白色となり、柄に垂生する。柄は、太短く、傘の側方に付き、ひだのつけ根との境に狭くて低い環状の隆起帯がある。柄の肉の内部には、暗紫色から黒褐色のシミがある。ひだの部分などが暗闇で青白く発光する。

分布： 旧ソ連沿海州、韓国、日本（中部以北）。県内では、津市、松阪市、大台町、伊賀市で確認されている。

現況・減少要因： 県内の生育地は、いずれも限られたブナ林地帯であり、継続した生育は確認されていない。なお、生育地で森林開発が計画されるなど、今後、生育地が消失する可能性がある。

保護対策： 生育地の保全、ブナ林の保全などが必要である。

文献： 3. 5. 8. 22.



(三輪秀子)

ムキタケ

ハラタケ目ガマノホタケ科

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：

Sarcomyxa serotina (Schrad.:Fr.) P. Karst.

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地がない。

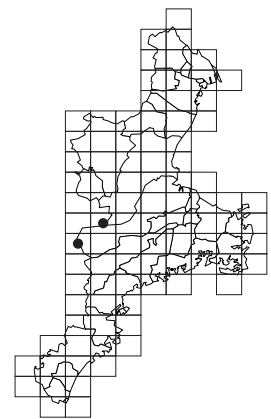
種の概要： ブナやミズナラの枯木の材上に群生する。傘は、汚黄色から汚黄褐色で緑や紫を帯び、細毛に覆われ、ほぼ半円形となる。傘の表皮下にはゼラチン層があり、表皮がはがれやすい。ひだは、やや黄色を帯びる。柄は、傘の側面に付き、太短く、表面に短毛を帯びる。

分布： 北半球温帯以北、日本（中部以北）。県内では、津市、松阪市で確認されている。

現況・減少要因： 県内の生育地は、いずれも限られたブナ林地帯であり、継続した生育は確認されていない。なお、生育地で森林開発が計画されるなど、今後、生育地が消失する可能性がある。

保護対策： 生育地の保全、ブナ林の保護などが必要である。

文献： 3. 5. 8. 22.



(西井孝文)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

マツタケ	ハラタケ目キシメジ科	三重県：絶滅危惧IB類 (EN)	環境省：NT
<i>Tricholoma matsutake</i> (S. Ito & S. Imai) Singer		旧県：絶滅危惧IB類 (EN)	

選定理由： 既知の生育地点数は100以下であるが、子実体の発生量が著しく減少しつつある。

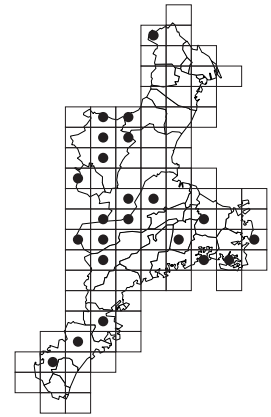
種の概要： アカマツなどの針葉樹林内の地上に群生する。傘は、淡黄褐色からくり褐色の繊維状、放射状に裂けて白い地肌を表し、はじめ球形、のちまんじゅう型から平らとなり、ついには縁部がそりかえる。肉は白色でち密、特有の香りがある。柄は、上下同大または上部が細いもの、基部の細いものがあり、上部は白色粉状、下部は褐色繊維状鱗片に覆われる。つばは綿毛状、永存する。

分 布： 朝鮮半島、中国（本土、台湾）、日本。県内では、いなべ市、松阪市、志摩市、伊賀市、名張市、熊野市などで確認されている。

現況・減少要因： 県内の生育地は、マツ材線虫病の被害によるアカマツの枯死などにより、生育に適した環境が減少しており、生育が確認できなくなったり、子実体の発生数が著しく減少してきている。

保護対策： 生育環境の保全、アカマツ林の保全などが必要である。

文 献： 3. 5. 8. 18. 22.



(西井孝文)

マツタケモドキ	ハラタケ目キシメジ科	三重県：絶滅危惧IB類 (EN)	環境省：NT
<i>Tricholoma robustum</i> (Alb. & Schwein.) Ricken (S. Imaz.)		旧県：絶滅危惧II類 (VU)	

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地がない。

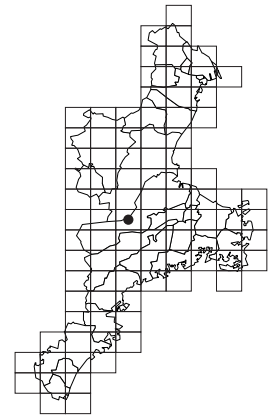
種の概要： アカマツ林内の地上に単生または群生する。傘は、小さな鱗片がしばしばささくれ状となり、赤褐色を帯び、はじめ半球形から低山形となり、のちほとんど平らに開くが、縁は下方に湾曲する。柄は、基部が急に細くなり下端がとがる。形態は、マツタケに似るが、ずっと小型で、マツタケ臭がない。

分 布： 北半球温暖帯以北、日本。県内では、松阪市で確認されている。

現況・減少要因： 過去に生育が確認されていた松阪市の生育地は、継続した生育が確認されていない。マツ材線虫病などによるマツ枯れの影響によるアカマツ林の減少に伴い、生育適地が著しく減少してきている。

保護対策： 生育地の保全、生育環境の保全、アカマツ林の保全などが必要である。

文 献： 3. 5. 7. 8. 22.



(西井孝文)

カゴタケ	スッポンタケ目アカカゴタケ科	三重県：絶滅危惧IB類 (EN)	環境省：—
<i>Ileodictyon gracile</i> Berk.		旧県：絶滅危惧IB類 (EN)	

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地が限られている。

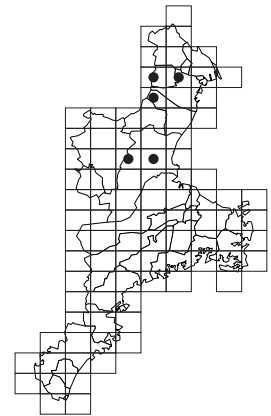
種の概要： 広葉樹、針葉樹林内の地上に単生から群生する。幼菌時は、白色扁球形、成熟すると裂開して白色の柄が伸び、中空の粗い網目を持つ丸かご形となる。柄の内側に、胞子を含むオリブ色の粘液をつけ甘い匂いを放つ。

分 布： オーストラリア、タスマニア、ニュージーランド、南アフリカ、中国、日本（茨城県、東京都、滋賀県、京都府、兵庫県、三重県など）。県内では、菰野町、四日市市、津市で確認されている。

現況・減少要因： 過去に生育が確認されていた津市の生育地は、道路整備による開発で生育地が消滅した可能性が高く、継続的な生育が確認されていない。

保護対策： 生育地の保全などが必要である。

文 献： 4. 5. 8. 11.



(三輪秀子)

維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ブナハリタケ

タマチョレイタケ目シワタケ科

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

Mycoleptonoides aitchisonii (Berk.) Maas Geest.

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地がない。

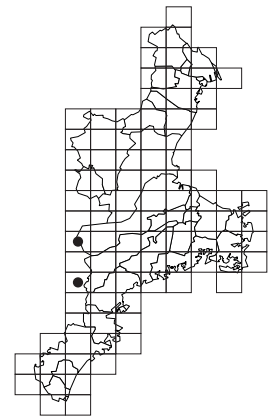
種の概要： ブナの枯木の材上に群生する。子実体はほとんど無柄、基部が癒合して傘が幾十にも重なり合う。多湿で柔軟な肉質だが乾くとやや強韌になる。傘は、白色から少し黄味を帯び、扇形からへら形で基部は狭まり、無毛平滑、縁は薄く全縁または多少歯牙状となる。下面の子実層托はハリタケ形、針は鋭く尖る。老熟すると酢酸ブチルエステルの甘い香りがある。

分布： インド、中国、日本（中部以北）。県内では、松阪市、大台町で確認されている。

現況・減少要因： 県内の生育地は、いずれも限られたブナ林地帯であり、継続した生育は確認されていない。なお、生育地で森林開発が計画されるなど、今後、生育地が消失する可能性がある。

保護対策： 生育地の保全、ブナ林の保護などが必要である。

文献： 4. 5. 8. 22.



(西井孝文)

ハナビラタケ

タマチョレイタケ目ハナビラタケ科

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

Sparassis latifolia Y.C. Dai & Zheng Wang

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地がない。

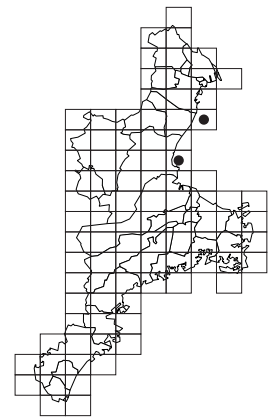
種の概要： 針葉樹（特にマツ類）の切株や根元に発生する。子実体は、白色からクリーム色で、柄は分岐を繰り返し、先端部は花びら状に薄くなり波状にうねって葉ボタン状となる。

分布： ヨーロッパ、北アメリカ、タイ、中国、日本。県内では、鈴鹿市、津市で確認されている。

現況・減少要因： 鈴鹿市及び津市の生育地では、いずれも古いマツの切株から発生が確認されているが、マツ材線虫病などによるマツ枯れの影響によるマツ林の減少に伴い、生育適地が減少してきている。

保護対策： 生育地の保全、マツ林の保全などが必要である。

文献： 4. 5. 8. 17. 22.



(清田卓也)

アオロウジ (アワビタケ)

ペニタケ目ニンギョウタケモドキ科

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

Albatrellus caeruleoporus (Peck) Pouzar

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地がない。

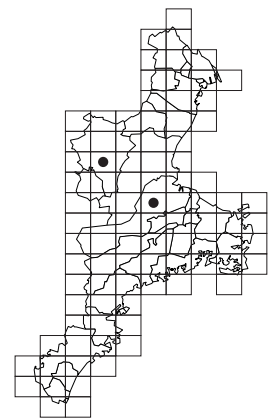
種の概要： アカマツ・コナラ林などの地上に群生する。傘は、青緑色から空色でのち色あせて灰褐色となり、円形に近い不正形となる。管孔は、青緑色からアンズ色で、柄は偏在から側生し、しばしば根元で複数が合着する。

分布： 北アメリカ（東部）、日本（東北、関東、中部）。県内では、松阪市、伊賀市で確認されている。

現況・減少要因： 過去に生育が確認されていた県内の生育地は、マツ材線虫病によるマツ枯れの影響などにより、生育環境が大きく変化し、2002年以降生育が確認されていない。

保護対策： 生育地の保全、生育環境の保全、アカマツ林の保全などが必要である。

文献： 4. 5. 8. 22.



(谷口雅仁)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

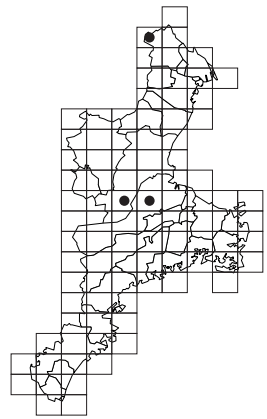
VU

NT

DD

ルリハツタケ <i>Lactarius subindigo</i> Verbeken & E. Horak	ベニタケ目ベニタケ科	三重県：絶滅危惧IB類 (EN) 旧県：絶滅危惧IA類 (CR)	環境省：
---	------------	-------------------------------------	------

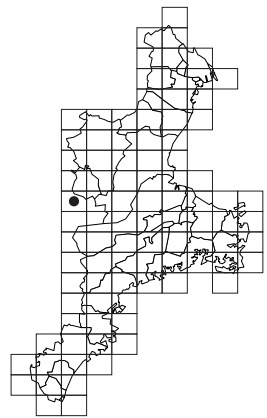
選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地がない。
種の概要： 針葉樹、広葉樹の混交林内などの地上に散生する。傘は、淡青色の地に濃い青の環紋をあらわし、初め丸山形から中央部がくぼんだまんじゅう形、のちに浅いじょうご形となる。子実体は、傷つけると藍色の乳液を少量分泌し、乳液は空気に触れて緑色に変色する。柄は、上下同大または下方が細まり、傘と同色で、あばた状のくぼみがある。
分布： パプアニューギニア、インド、中国、日本（東北地方から屋久島）。県内では、いなべ市、松阪市で確認されている。
現況・減少要因： 県内の生育地は、広葉樹林の放置やマツ材線虫病の被害によるアカマツ林の減少などにより、生育に適した環境が減少してきている。
保護対策： 生育地の保全、広葉樹林やアカマツ林の保全などが必要である。
文献： 3. 5. 8.



(清田卓也)

クロカワ (ロウジ) <i>Boletopsis leucomelaena</i> Pers.	イボタケ目マツバハリタケ科	三重県：絶滅危惧IB類 (EN) 旧県：絶滅危惧II類 (VU)	環境省：DD
---	---------------	-------------------------------------	--------

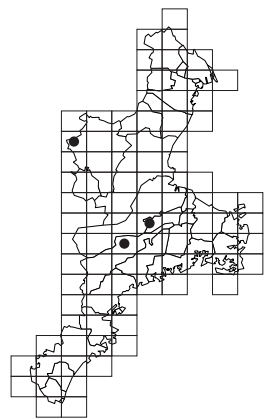
選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地がない。
種の概要： 針葉樹林内の地上に単生から群生する。傘は、微細な短毛に覆われ、灰色から黒色で、初め丸山形からのち扁平に開き、やがてそり返る。管孔は白色から灰色で、柄は、円柱状で太く、傘と同色。肉は厚く、白色で、傷つくと赤紫色に変色する。
分布： ヨーロッパ、北アメリカ、日本など。県内では、松阪市、伊賀市で確認されている。
現況・減少要因： 継続した生育が確認されている松阪市の生育地では、マツ材線虫病によるマツ枯れの影響などにより、子実体の発生数が極めて減少してきている。
保護対策： 生育地の保全、アカマツ林の保全が必要である。
文献： 4. 5. 8. 22.



(谷口雅仁)

マツバハリタケ <i>Bankera fuligineoalba</i> (J.C. Schmidt) Coker & Beers ex Pouzar	イボタケ目マツバハリタケ科	三重県：絶滅危惧IB類 (EN) 旧県：絶滅危惧IB類 (EN)	環境省：DD
---	---------------	-------------------------------------	--------

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地がない。
種の概要： マツ林内の地上に群生する。傘は、乾いた皮質で、淡いにつけい色から茶褐色で、周辺部は白色丸山形から平らに開き、中央部が少しくぼむ。子実層托は、白色からしだいに材木色で、柔軟な針状となる。柄は、傘よりも少し濃色で、太短く、芳香がある。
分布： 北アメリカ、ヨーロッパ、日本。県内では、名張市で確認されている。
現況・減少要因： 過去に生育が確認されていた名張市の生育地は、継続的な生育が確認されていない。本種は、海岸のクロマツ林や里山のアカマツ林が主な生育地であるため、マツ材線虫病などによるマツ枯れの影響によるマツ林の減少に伴い、生育適地が著しく減少してきている。
保護対策： 生育地の保全、マツ林の保全などが必要である。
文献： 4. 5. 8. 22.



(三輪秀子)

- 維管束植物
- 蘚苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

コウボウフデ

ユーロチウム目ツチダンゴ科

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：DD

Pseudotulostoma japonicum (Kawam. ex Otani) I. Asai, H. Sato & Nara

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地がない。

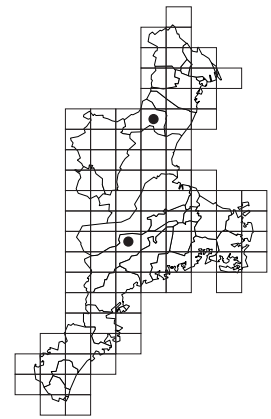
種の概要： 広葉樹林内の地上に群生する。子実体の頭部は、帯紫灰色から帯暗緑灰色で、刷毛状から不規則に裂開し、古綿状となって垂れ下がる。柄は、暗緑灰色で、円筒形で基部に向かってやや膨らみ、袋の内部に深く入り、表面は縦に繊維状の条線を呈する。基部の袋部は、汚黄褐色から汚黄灰色で、花瓶形となる。

分布： 日本（福島県、熊本県、三重県など）。県内では、亀山市、大台町で確認されている。

現況・減少要因： 亀山市や大台町の生育地では、継続的な生育が確認されているが、その生育面積は狭く、危機的な状況にある。

保護対策： 生育環境の保全などが必要である。

文献： 2. 4. 5. 7. 8. 9. 21.



(西井孝文)

イボセイヨウショウロ

チャワンタケ目セイヨウショウロ科

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：

Tuber indicum Cooke & Massee

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生育地点数は1以下であるが、子実体が地中に発生するため、未知の生育地が多いと予測される。

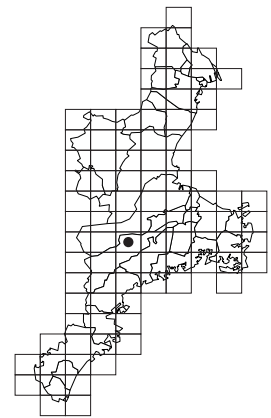
種の概要： 主に広葉樹林内の地中に発生するいわゆる黒トリュフの仲間である。子実体は、黒褐色で、高さ1 mm程のイボ状突起におおわれ、塊状から球状となり、土中に生じ、ときに上部を露出する。断面は明褐色から成熟するとほぼ黒色の地に白色の大理石模様が入り、成熟すると海苔の佃煮に似た芳香がある。

分布： インド、中国、日本。県内では、大台町で確認されている。

現況・減少要因： 過去に生育が確認されていた大台町の生育地では、2002年から2006年頃まで継続して子実体の発生が確認されていたが、その後の発生が確認されていない。

保護対策： 生育地の保全、生育環境の保全などが必要である。

文献： 5. 6. 8. 9.



(谷口雅仁)

クモタケ

ボタンタケ目バツカクキン科

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：

Nomuraea atypicola (Yasuda) Samson

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、主な寄主であるキシノウエトタテグモの絶滅が危惧されるため、本種も絶滅が危惧される。

種の概要： 地中のキシノウエトタテグモ類に寄生し、子実体は、クモの巣穴から伸長発生し、柄と頭部に分かれ、上方に生じた頭部にフジ色で粉状の胞子（分生子）を形成する。本種は無性世代の分生子束のことであり、有性世代はイリオモテクモタケとなる。

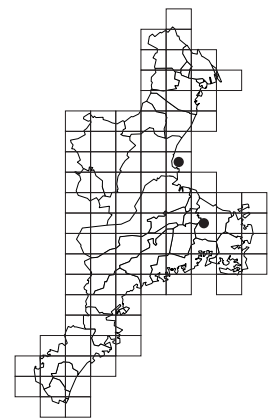
分布： トリニダード・トバゴ、ブラジル、タイ、中国、日本。県内では、津市、伊勢市で確認されている。

現況・減少要因： 公園などの崖地や石垣に生息するキシノウエトタテグモ類に寄生するため、改修工事や崖地の崩壊、乾燥化などの影響を受けやすく、生育適地が減少する可能性が高い。

保護対策： 生育地の保全、寄主であるキシノウエトタテグモの保護などが必要である。

特記事項： キシノウエトタテグモと分布が平行する。

文献： 5. 8. 12. 14. 16.



(谷口雅仁)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ドクカラカサタケ

ハラタケ目ハラタケ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

Chlorophyllum neomastoideum (Hongo) Vellinga

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は1以下であるが、子実体の発生期間が短いことなどから、未知の生育地が多いと予測される。

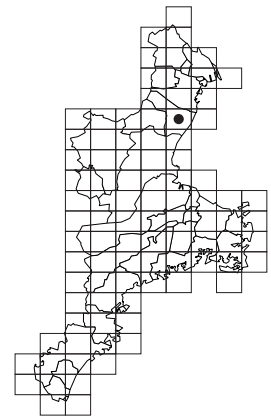
種の概要： 竹やぶ、林地などの地上に群生する。傘は、白地で細かくささくれ、黄褐色の大きな鱗片を付け、球形、のち開いてやや中高の平らとなる。肉は、傷つくと赤味を帯びる。柄の形状は、基部が急に膨らみ、塊茎状になる。環状、可動式のつばがある。

分布： 日本。県内では、鈴鹿市で確認されている。

現況・減少要因： 過去に生育が確認された鈴鹿市の生育地は、公園内であるが、園内植物の管理上から腐葉土などの有機質が多い土壌となっているため、本種が生育したものと推定される。しかし、近年は生育を確認できておらず、今後の管理方法により、生育地が失われる可能性がある。

保護対策： 生育環境の保全、生育地の保護が必要である。

文献： 3. 5. 8. 17. 22.



(清田卓也)

アバタケシボウズタケ

ハラタケ目ハラタケ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

Tulostoma adhaerens Lloyd

旧県：—

選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、安定した生育地がない。

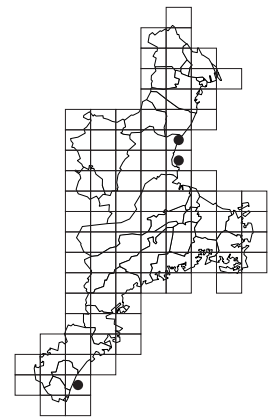
種の概要： 海岸の砂地に群生する。幼菌時は類球形、地中生で、成熟に伴い柄を伸ばし、頭部を地上に出す。頭部は、類球形で、最初砂を含んだ白色菌糸状の外皮が付着するが、老熟するとこれが落ちて帯赤褐色の内皮を現す。頂部の孔口は管状。柄は、白色から老熟すると淡赤褐色を帯びる。

分布： 南アフリカ、マダガスカル、マレーシア、オーストラリア、日本。県内では、津市、紀宝町で確認されている。

現況・減少要因： 生育が確認されている県内の海岸では、埋め立てや堤防整備、植林などの人為的影響や、砂浜の浸食などにより、生育に適した環境が減少している。

保護対策： 海岸環境の保全、生育地の保護が必要である。

文献： 1. 8. 20.



(谷口雅仁)

ナガエノホコリタケ

ハラタケ目ハラタケ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：DD

Tulostoma fimbriatum Fr. var. *campestre* (Morgan) G. Moreno

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、安定した生育地がない。

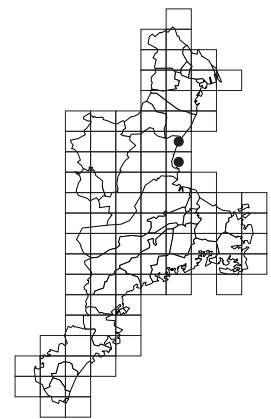
種の概要： 海岸の砂地に群生する。幼菌時は類球形、地中生で、成熟に伴い柄を伸ばし、頭部を地上に出す。頭部は、やや扁平な類球形、淡赤褐色から灰色で、頂部に房毛状の孔口を開き、雨や風などの刺激により胞子を空中に噴出する。柄は、基部がややふくらみ、淡赤褐色の地に暗赤褐色のだんだら模様を付ける。

分布： ヨーロッパ、北アメリカ、中国、日本。県内では、鈴鹿市、津市で確認されている。

現況・減少要因： 生育が確認されている県内の海岸では、埋め立てや堤防整備、植林などの人為的影響や、砂浜の浸食などにより、生育に適した環境が減少している。

保護対策： 海岸環境の保全、生育地の保護が必要である。

文献： 4. 8. 17. 20. 22.



(谷口雅仁)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

オオオニテングタケ

ハラタケ目テングタケ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

Amanita macrocarpa W.Q. Deng, T.H. Li & Zhu L. Yang

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地が少ない。

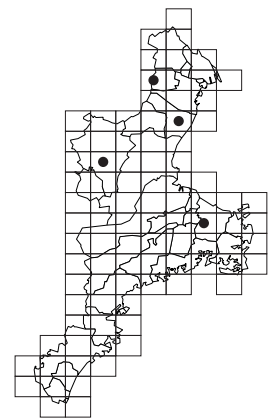
種の概要： 夏から秋、アカマツ混じりのコナラ林やシイ林などの樹下に単生から散生する。傘は径10~35 cmになる大型のきのこで、表面は淡黄褐色から淡褐色、角錐形で褐色のイボに覆われる。ひだはクリーム色、密。柄は傘と同色、頂部に白色膜質のつばをつけ、下部は棍棒状にふくらみ、しばしば縦の深いわれめができる。新鮮な個体では甘い香りがあるが、すぐに強い不快臭に変わる。

分布： 中国、日本（兵庫県、奈良県、岡山県、山口県）。県内では、菰野町、鈴鹿市、伊勢市、伊賀市で確認されている。

現況・減少要因： 菰野町の公園では、継続した生育が確認されているが、将来開発や広葉樹林の放置などにより、生育に適した環境が減少する可能性がある。

保護対策： 生育地の保全、生育環境の保全などが必要である。

文献： 8, 19.



(三輪秀子)

ウスキテングタケ

ハラタケ目テングタケ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

Amanita orientigemmata Zhu L. Yang & Yoshim. Doi

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地が少ない。

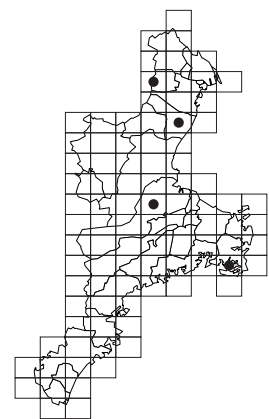
種の概要： アカマツなどの針葉樹林、コナラなどの広葉樹林、針葉樹・広葉樹混交林に単生から群生する。傘は淡黄色、白色から帯白色で膜質の白色のいぼを付着する。柄は、帯白色から淡黄色で、綿質のやわらかい鱗片に覆われ、ときにややだんだら模様となる。基部は、塊茎状に膨らみ、つばは、膜質の白色で消失しやすい。

分布： 中国、韓国、日本（滋賀県、京都府、熊本県など）。県内では、菰野町、鈴鹿市、松阪市、志摩市で確認されている。

現況・減少要因： 県内の生育地では、広葉樹林の放置、マツ材線虫病の被害によるアカマツ林の減少などにより、生育に適した環境が減少している。

保護対策： 生育地の保全、アカマツ林や広葉樹林の保全などが必要である。

文献： 3, 8, 17, 22.



(三輪秀子)

ソライロタケ

ハラタケ目イッポンシメジ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

Entoloma virescens (Berk. & M.A. Curtis) E. Horak

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地が少ない。

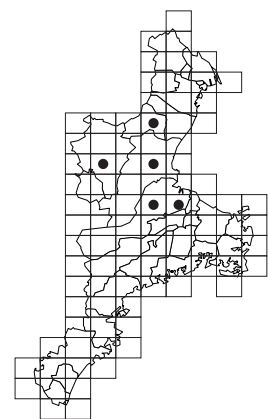
種の概要： 広葉樹林内の地上に単生または群生する。傘ははじめ円錐形、のち開いてまんじゅう形からほぼ平らとなり、しばしば中心に乳頭状の突起を付ける。表面は細かい繊維状鱗片におおわれる。ひだは上生からほぼ離生する。柄の表面は繊維状で多少ねじれ、全体が空色で、傷ついた部分は黄変する。

分布： 東南アジア等熱帯、日本。県内では、亀山市、津市、松阪市、伊賀市で確認されている。

現況・減少要因： 確認された生育地での子実体の発生は単発的で、継続して発生が確認できる生育地は少ない。里山の荒廃などにより生育に適した環境が減少しているものと思われる。

保護対策： 広葉樹林の保全、生育地の保護などが必要である。

文献： 3, 5, 7, 8, 18.



(谷口雅仁)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

シャカシメジ (センボンシメジ)

ハラタケ目シメジ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

Lyophyllum fumosum (Pers.) P.D. Orton

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、安定した生育地がない。

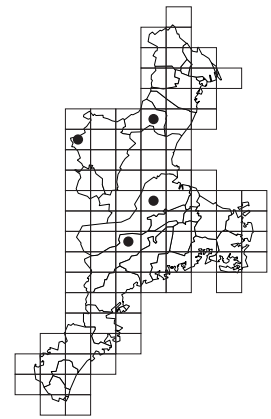
種の概要： コナラ林などの広葉樹林内等の地上に単生、群生する。傘は、暗灰褐色、灰から灰褐色で、半球形からまんじゅう形、のち平らとなり、さらに反対にそり返ることがある。柄は、塊茎状の太い根株から多数生じ、ときに枝分かれし、その先に傘をつける。

分布： 北半球温帯、日本。県内では、亀山市、松阪市、大台町、伊賀市で確認されている。

現況・減少要因： 県内の生育地では、広葉樹林が放置されるなど、生育に適した環境が減少している。

保護対策： 生育地の保全、広葉樹林の保全などが必要である。

文献： 3. 5. 8. 22.



(西井孝文)

ヒョウモンウラボニガサ

ハラタケ目ウラボニガサ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

Pluteus pantherinus Courtec. & M. Uchida

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であるが、生育環境が特殊なため、未知の生育地が多いと予測される。

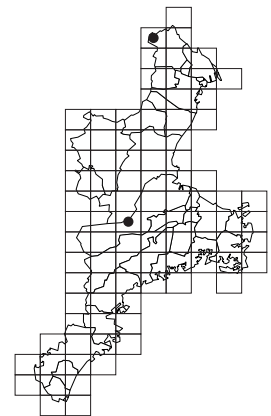
種の概要： 広葉樹朽木上に束生する。傘は、初め丸山形のちやや中高の平らに開く。表面はつやなく、黄土色から暗黄土色の地に淡色の斑点があり、ヒョウ紋に見える。乾燥すると周辺部に条線をあらわす。ひだは白色のち肉色。柄は、上部に向かって細まり、淡黄色で絹状のつやがある。

分布： 日本。県内では、いなべ市、松阪市で確認されている。

現況・減少要因： 過去に生育が確認されていた県内の生育地では、いずれもシイタケの古いほだ木から子実体が発生していたが、現在、ほだ木が撤去され、継続的な生育が確認できなくなっている。

保護対策： 生育環境の確保などが必要である。

文献： 3. 5. 8. 22.



(古川未来)

シモコシ

ハラタケ目キシメジ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：NT

Tricholoma auratum (Paulet) Gillet

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地が少ない。

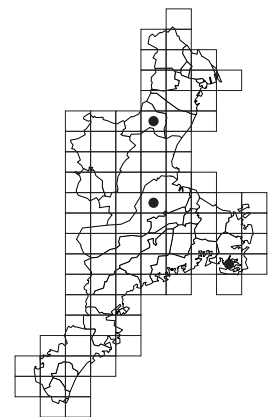
種の概要： マツ林やマツ・広葉樹の混交林の地上に群生する。子実体の傘はまんじゅう形から中高の平らに開き、表面は硫黄色、中央部は帯赤褐色で、暗褐色細鱗片を有する。湿時には、粘性がある。幼菌時は、柄の基部がそろばん玉状にふくらみ、のち棍棒状になる。

分布： 北半球一帯、日本。県内では亀山市、松阪市、志摩市などで確認されている。

現況・減少要因： 県内の生育地では、いずれも安定した生育が確認されていない。マツ材線虫病の被害などによるアカマツ林の減少に伴い、生育適地が減少してきているためと考えられる。

保護対策： 生育地の保全、アカマツ林の保全などが必要である。

文献： 5. 8. 22.



(清田卓也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

バカマツタケ

ハラタケ目キシメジ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：NT

Tricholoma bakamatsutake Hongo

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地が少ない。

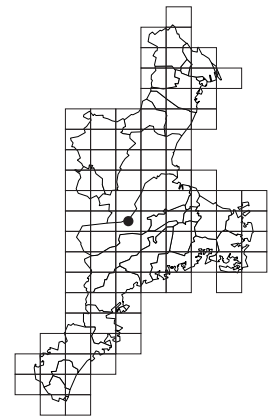
種の概要： コナラ、ミズナラなどの広葉樹の林内に発生。マツタケに近縁でやや小さく、マツタケ臭が強い。傘の中央部はくり褐色、周辺部は淡色からほとんど白色。最初繊維状、のち表皮は裂けて鱗片となる。柄は上下同大か、やや根もとが太い。

分 布： ニューギニア、日本。県内では、松阪市で確認されている。

現況・減少要因： 過去に生育が確認されていた県内の生育地は、広葉樹林の放置などにより、生育に適した環境でなくなっており、子実体の発生が確認できなくなっている。

保護対策： 生育地の保全、広葉樹林の保全などが必要である。

文 献： 3. 5. 8. 22.



(西井孝文)

シロシメジ (ヌノビキ)

ハラタケ目キシメジ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

Tricholoma japonicum Kawam.

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地が少ない。

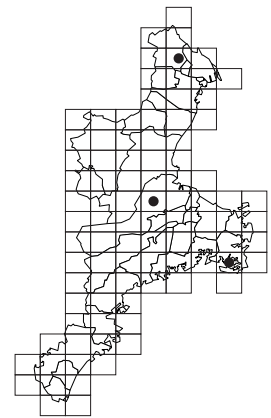
種の概要： アカマツ林内の地上に群生する。傘は、ほぼ平滑で湿時粘性があり、ほとんど白色であるが、成熟すると中央部が褐色または汚黄色を帯び、はじめ半球形からまんじゅう形となり、のちほとんど平らに開く。ひだはきわめて密で、白色であるが、のち汚褐色のしみができる。柄は、白色から帯褐色で、太短く下部はやや膨らむ。

分 布： 日本。県内では、いなべ市、松阪市、志摩市で確認されている。

現況・減少要因： 県内の生育地では、マツ材線虫病の被害によりアカマツ林が減少するなど、生育に適した環境が減少している。

保護対策： 生育地の保全、アカマツ林の保全などが必要である。

文 献： 3. 5. 7. 8.



(谷口雅仁)

ケショウシメジ

ハラタケ目キシメジ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

Tricholoma orirubens Quél.

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地が少ない。

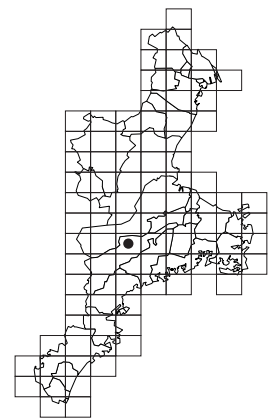
種の概要： コナラ林などの広葉樹林内の地上に単生する。傘は、暗灰褐色、周辺部はほとんど白色で、まんじゅう形から開いて中高平らとなる。ひだは白色のち赤くふちどられ、ついには全面が紅色に染まる。柄は、上下同大又は基部に向かって太まり、下部は紅色を帯びる。肉は白色だが、切断するとゆるやかに淡紅色となる。

分 布： 北半球温帯、日本。県内では大台町で確認されている。

現況・減少要因： 過去に生育が確認された大台町の生育地では、極度に樹木が伐採されるなど環境が変化したため、生育に適した環境が失われている。

保護対策： 広葉樹林の保全、生育地の保護などが必要である。

文 献： 3. 8. 9.



(清田卓也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

シロマツタケモドキ

ハラタケ目キシメジ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：NT

Tricholoma radicans Hongo

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地が少ない。

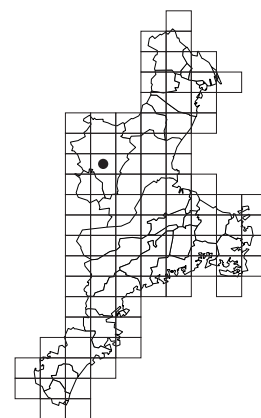
種の概要： マツ林や雑木林の地上に発生。全体がほとんど白色。傘表面に鱗片があり、傘中央部はわずかに黄褐色を帯びる。柄にはつばがあり、つばより下はささくれ、柄の基部は急に細まる。

分布： 日本。県内では、伊賀市で確認されている。

現況・減少要因： 過去に生育が確認されていた伊賀市の生育地は、広葉樹林の放置、マツ材線虫病の被害によりアカマツ林が減少するなど、生育に適した環境が減少した結果、子実体の発生が確認できなくなっている。

保護対策： 生育環境の保全、マツ林の保全などが必要である。

文献： 3, 5, 8, 22.



(西井孝文)

クギタケ

イグチ目オウギタケ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

Chroogomphus rutius (Schaeff.) O.K. Mill.

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、安定した生育地がない。

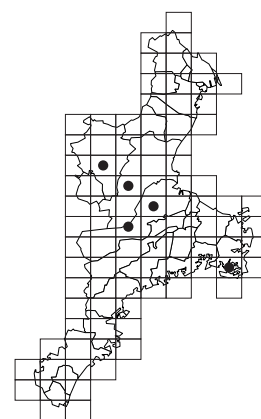
種の概要： アカマツ林内の地上に単生する。傘は円錐形からまんじゅう形で、しばしば中央部が山形に突出する。表面は湿ると粘性があり、初め絹糸状の繊維で薄くおおわれるが、のち無毛平滑、光沢があり、粘土褐色から暗赤褐色。ひだははじめ淡褐色、のち暗赤褐色から黒褐色。つばは綿毛状で消失しやすい。

分布： 北半球温帯以北、日本。県内では津市、松阪市、志摩市、伊賀市で確認されている。

現況・減少要因： 県内の生育地では、マツ材線虫病の被害によりアカマツ林が減少するなど、生育に適した環境が減少している。

保護対策： 生育環境の保全、アカマツ林の保全などが必要である。

文献： 3, 5, 7, 8, 17, 22.



(三輪秀子)

オウギタケ (アカタケ)

イグチ目オウギタケ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

Gomphidius roseus (Fr.:Fr.) P. Karst.

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、安定した生育地がない。

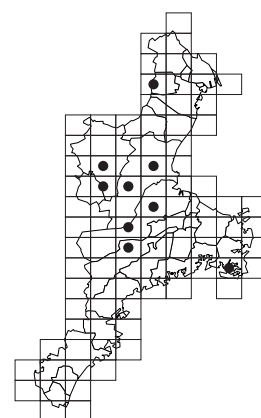
種の概要： アカマツ林内の地上に単生または群生する。傘は初め丸山形、のち平らまたは浅い漏斗形、表面は湿時ゼラチン質で、淡紅色からバラ色、古くなると黒いシミを生じる。ひだは垂生し、灰白色のち帯緑暗灰褐色、柄は綿毛状の不完全なつばを付け、類白色から下部は帯紅色。アマタケに寄生または共生していると考えられる。

分布： ユーラシア、日本。県内では、菰野町、津市、松阪市、大台町、志摩市、伊賀市、名張市などで確認されている。

現況・減少要因： 本種は、アマタケと同様に比較的若いアカマツ林の小草や腐植質の少ない林床が主な生育地である。県内の生育地では、マツ材線虫病の被害などにより、アカマツ林が著しく減少したことに伴い、生育地が激減している。

保護対策： 生育環境の保全、アカマツ林の保全などが必要である。

文献： 3, 5, 7, 8, 17, 22.



(三輪秀子)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

シヨウロ

イグチ目シヨウロ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

Rhizopogon roseolus (Corda) Th. Fr.

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、安定した生育地がない。

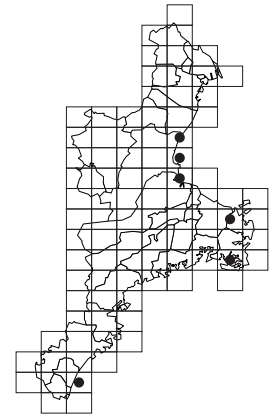
種の概要： 海岸などのマツ林内及び周辺の地中から地上に群生する。子実体は、地中生育時は白から淡紫褐色であるが、地表に出ると黄褐色から赤色を帯び、表皮は傷つくと黄褐色のち赤ワイン色に変色する。形状は、類球形から広卵形となる。子実体内部（基本体）は、はじめ白色、後黄土色からオリーブ色で、迷路状から球形の小室より構成され、特有の芳香がある。

分布： 北半球一帯、日本。県内では津市、明和町、志摩市、紀宝町で確認されている。

現況・減少要因： 過去に生育が確認されていた紀宝町の生育地では、クロマツが壊滅的に伐採された結果、継続的な生育が確認されなくなったが、津市の生育地では、植林されたクロマツ林などで新たに生育が確認されている。しかし、生息適地である伊勢湾沿岸のクロマツ林の減少に伴い、生育に適した環境が減少している。

保護対策： 生育地の保全、マツ林の保全などが必要である。

文献： 4. 5. 8. 22.



(西井孝文)

イカタケ

スッポンタケ目アカカゴタケ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

Aseroë arachnoidea E. Fisch.

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であるが、生育環境が特殊なため、未知の生育地が多いと予測される。

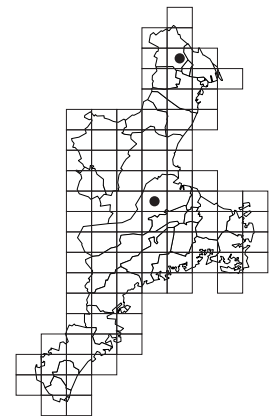
種の概要： もみがら、おがくずなどに群生する。幼菌時は、白色球形の殻に包まれ、成熟するに伴い殻皮を破って柄部が伸張し、白く太い柄からイカの足に似た細柄を放射状に伸ばす。柄の付け根に胞子を含む黒褐色の粘液をつける。強い腐肉臭がある。

分布： 中国、ジャワ、ボルネオ、スマトラ、スリランカ、マレーシア、ベトナム、ニュージーランド、日本（宮城県、愛知県、京都府、鳥取県、香川県、高知県、大分県、宮崎県、三重県）など。県内では、いなべ市、松阪市で確認されている。

現況・減少要因： 本種は、もみがらなどに生育する特殊な生育環境のため、安定した生育地がない。

保護対策： 生育環境の確保などが必要である。

文献： 4. 5. 8. 10. 22.



(三輪秀子)

ニンギョウタケモドキ

ベニタケ目ニンギョウタケモドキ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：NT

Albatrellus ovinus (Schaeff.) Kotl. & Pouzar

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地が少ない。

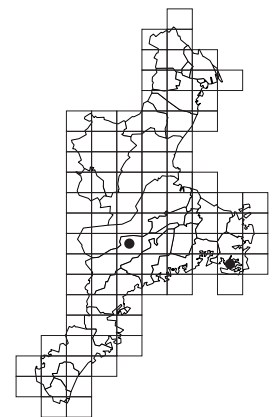
種の概要： マツ、モミ、トウヒなどの針葉樹林内の地上に単生から群生する。形状は、ほぼ円形から不正形、低い丸山形から扁平、傘は、白地に黄から黄褐色の小さい亀裂模様をあらわす。肉は白、柔軟な肉質。下面は初め白、のち黄色のしみを帯びる。管孔は、円形から不正形。柄は、中心生から偏心生、やや屈曲する。

分布： ヨーロッパ、北アメリカ、日本。県内では大台町、志摩市で確認されている。

現況・減少要因： 過去に生育が確認された志摩市の生育地は、アカマツ・コナラなどの混交林で、一度確認されただけである。また、大台町の生育地は、モミ混じりの広葉樹林であるが、極度に樹木が伐採されたため、極めて不安定な生育環境となっている。

保護対策： 生育地の保全、マツ林の保全、モミ林の保全などが必要である。

文献： 4. 8. 9.



(清田卓也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

コウタケ

イボタケ目マツバハリタケ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

Sarcodon aspratus (Berk.) S. Ito

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地が少ない。

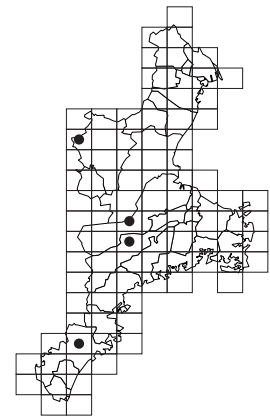
種の概要： 広葉樹林内の地上に単生から群生する。子実体はアサガオの花のように開いたろうと形、傘の中心は深くくぼむ。表面には粗大で強く反り返った角状の鱗片が密生する。幼菌時は、全体が薄いピンク色を帯びた淡褐色、のちに紅褐色から黒褐色となる。柄の下の方まで短い針がある。乾くと強い醤油に似た香りを放つ。

分布： 日本。県内では松阪市、大台町、伊賀市、熊野市などで確認されている。

現況・減少要因： 現在確認されている生育地では、本種がきのこ狩りの対象とされているため、人為的な採取圧もあり、安定した生育環境が失われつつある。

保護対策： 生育地の保全、広葉樹林の保全などが必要である。

文献： 4, 5, 8, 9.



(清田卓也)

シャグマアミガサタケ

チャワンタケ目フクロシトネタケ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

Gyromitra esculenta (Pers.) Fr.

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地が少ない。

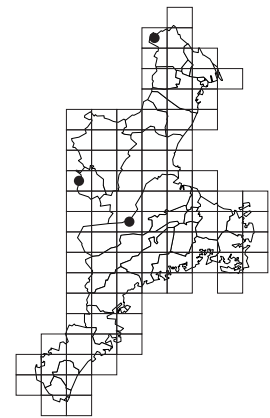
種の概要： 針葉樹林内の地上に単生から群生する。頭部は球形もしくは不規則な塊状で、表面は著しい凹凸やしわがあり脳みそ状。黄土褐色から赤褐色。柄は中空で、下方に向かって太く、浅い縦じわがあり、黄褐色から肌色。

分布： 温帯に広く分布。県内では、いなべ市、松阪市、名張市で確認されている。

現況・減少要因： 過去に生育が確認されていたいなべ市、松阪市の生育地では、継続した生育が確認されておらず、名張市の生育地も規模が小さく不安定な状況である。

保護対策： 生育地の保全、生育環境の保護などが必要である。

文献： 4, 5, 8, 22.



(谷口雅仁)

クルミタケ

チャワンタケ目フクロシトネタケ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

Hydnotrya tulasnei (Berk.) Berk. & Broome

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生育地点数は1以下であるが、子実体が地中に発生するため、未知の生育地が多いと予測される。

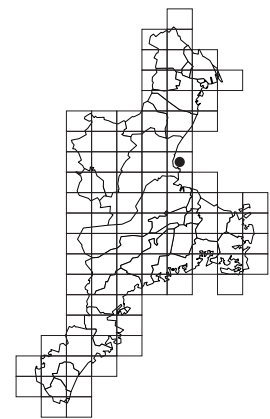
種の概要： 子実体は塊状で、土中に生じ、ときに上部を露出する。表面は暗赤褐色で、いちじるしい凹凸がある。内部には迷路状の空隙があり、不規則な小室をつくる。

分布： ヨーロッパ、北アメリカ、日本。県内では、津市で確認されている。

現況・減少要因： 生育が確認されている津市の公園では、継続的な生育が確認されているが、公園の整備や樹木の枯死などにより、子実体の発生量は年々減少してきている。

保護対策： 生育地の保全、生育地の保護が必要である。

文献： 4, 5, 8, 22.



(谷口雅仁)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

シロテングタケ

ハラタケ目テングタケ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Amanita neoovoidea Hongo

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生育地点数は100以下であり、安定した生育地が少ない。

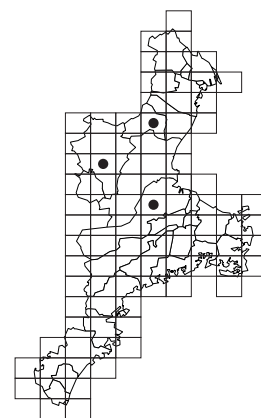
種の概要： 広葉樹林内の地上に単生する。子実体の傘の表面は白色で粉質物に覆われ、湿時多少粘性がある。淡黄土色の大きなつぼの破片が残存し、しばしば縁部につぼの破片が垂れ下がる。基部は棍棒状から紡錘状に膨らみ、つぼのとれたあとの内層が残る。つぼは白色で綿屑状から膜状であるが、傘が開く際には細かく崩れ落ちる。

分布： ネパール、中国、韓国、日本。県内では亀山市、松阪市、伊賀市などで確認されている。

現況・減少要因： 現在確認されている生育地は、土地開発により環境が変化したため、生育に適した環境が失われている。

保護対策： 広葉樹林の保全、生育地の保護などが必要である。

文献： 3. 5. 8. 17. 22.



(清田卓也)

シロツルタケ

ハラタケ目テングタケ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Amanita vaginata (Bull.:Fr) Lam. f. *alba* (De Seynes) Vesely

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、安定した生育地が少ない。

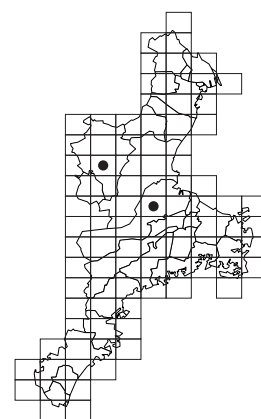
種の概要： 広葉樹林内の地上に単生から群生する。子実体は全体が白色で、傘には、条線があり、しばしば白色の外皮膜の膜片を付着させる。柄はときには鱗片状となる。つぼは無く、柄の基部には膜質でさや状のつぼを有する。

分布： 北半球一帯、日本。県内では松阪市、伊賀市などで確認されている。

現況・減少要因： 現在確認されている伊賀市の生育地は、公園内であるため、継続した生育が期待できるが、他に安定した生育地が認められない。

保護対策： 広葉樹林の保全、生育地の保護などが必要である。

文献： 3. 5. 8. 22.



(清田卓也)

クリフウセンタケ

ハラタケ目フウセンタケ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Cortinarius tenuipes Hongo (Hongo)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、安定した生育地が少ない。

種の概要： コナラ・クヌギなどの広葉樹林、アカマツ・コナラなどの混交林の地上に群生する。傘はまんじゅう形からやや中高の平らに開き、表面は黄土橙色、中央部は帯褐色、周辺には白色絹糸状の皮膜の破片を付着するが消失しやすい。湿っているときは多少粘性がある。ひだははじめ白色、のち粘土色からにつけい褐色となる。柄は、上下同大もしくは下方に向かってやや細まる。

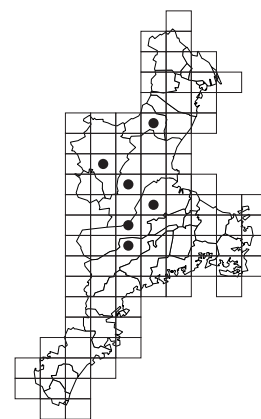
分布： 日本（本州・九州）。県内では亀山市、津市、松阪市、大台町、伊賀市で確認されている。

現況・減少要因： 松阪市の生育地は、コナラ・クヌギなどの広葉樹林内であったが、放置された結果、生育環境が劣化し、継続的な生育は確認されていない。他の生育地でも安定した生育は確認されていない。

保護対策： 広葉樹林の保全、生育地の保護などが必要である。

特記事項： 標準和名はニセアブラシメジ。

文献： 3. 5. 8. 22.



(三輪秀子)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

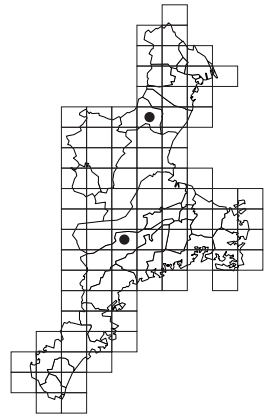
VU

NT

DD

ニセマツタケ (サマツ) <i>Tricholoma fulvocastaneum</i> Hongo	ハラタケ目キシメジ科	三重県：準絶滅危惧 (NT) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：NT
---	------------	--------------------------------	--------

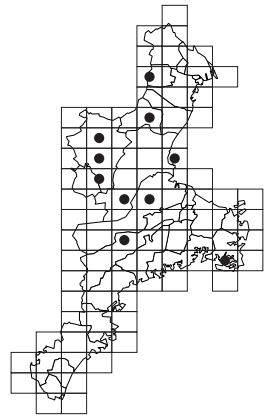
選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地が少ない。
種の概要： マツタケより早くシイ・コナラなどの広葉樹林の地上に群生し、「サマツ」の名前で市場に出回ることがある。マツタケに比べ柄の下部が細くなっていること、全体の色が黄色味を帯びていること、芳香がほとんど無いことなどで区別される。
分 布： 日本 (本州, 四国, 九州)。県内では亀山市, 大台町で確認されている。
現況・減少要因： 県内の生育地は、比較的若いシイ・カシ林が中心であるが、森林の遷移や広葉樹林の放置により、生育に適した環境が減少しているものと思われる。
保護対策： 林の保全, 生育地の保護が必要である。
文 献： 3, 8, 22.



(谷口雅仁)

アマタケ (スドオシ) <i>Suillus bovinus</i> (L.) Roussel	イグチ目ヌメリイグチ科	三重県：準絶滅危惧 (NT) 旧県：絶滅危惧II類 (VU)	環境省：
---	-------------	-----------------------------------	------

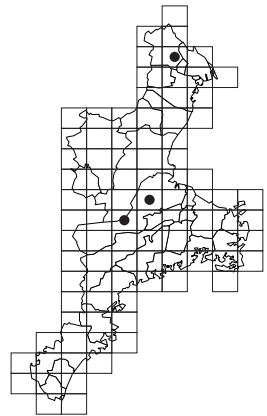
選定理由： 既知の生育地点数は100以下であり、安定した生育地が少ない。
種の概要： アカマツ林内の地上に単生から群生する。傘は丸山形から平らに開き、のち老熟してそり返る。表面は湿っているとき粘性があり、肉桂色から粘土褐色。管孔は広く、やや垂生し、オリーブ黄色。柄は上下同幅で粒点を欠き、傘と同色からやや淡色。肉は類白色から淡鯉肉色。
分 布： ユーラシア, 日本。県内では、菟野町, 亀山市, 伊賀市, 名張市, 松阪市, 大台町, 志摩市などで確認されている。
現況・減少要因： 各地のアカマツ林に広く分布し、かつてはポピュラーなきこの狩りの対象であった。近年はマツの材線虫病などの被害によりアカマツ林が著しく減少したことにより、生育に適した環境が激減している。
保護対策： アカマツ林の保全, 生育地の保護などが必要である。
文 献： 4, 5, 7, 8, 17, 18, 22.



(西井孝文)

キノガサタケ <i>Dictyophora indusiata</i> (Vent.) Desv.	スッポンタケ目スッポンタケ科	三重県：準絶滅危惧 (NT) 旧県：準絶滅危惧 (NT)	環境省：
---	----------------	---------------------------------	------

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地が少ない。
種の概要： 竹林内、ときに広葉樹林内の地上に単生または群生。地中に塊形の子実体を作り、のち殻皮を破り伸張した白い柄の上部に網目状の隆起を持つ釣鐘形の傘をつけ、傘表面は胞子を含む粘液状の基本体におおわれる。傘の下に純白レース状のマント(菌網)をまとふ。
分 布： 北アメリカ, オーストラリア, 中国など, 日本。県内では、いなべ市, 松阪市で確認されている。
現況・減少要因： 現在確認されている生育地は、いずれも竹林内であるが、開発, 災害による生育地点の消失, 竹林の放置など生育環境の劣化により、継続的に生育を確認できる地点が減少してきている。2009年に四日市市の公園で新たな生育が確認されたが、園内整備により失われた。
保護対策： 荒廃竹林の整備, 生育環境の保全などが必要である。
文 献： 4, 5, 8, 10, 22.



(三輪秀子)

- 維管束植物
- 蘚苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

トキイロラッパタケ

アンズタケ目アンズタケ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Cantharellus luteocomus H.E. Bigelow

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生育地点数は100以下であり、安定した生育地が少ない。

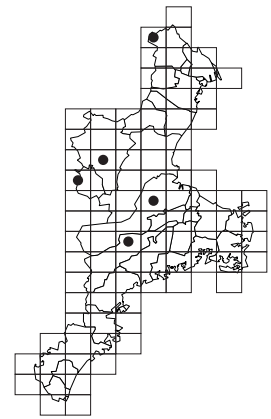
種の概要： マツ林内などの地上に群生する。形状は直立性、傘と柄に分化する。傘はろうと形で肉が薄く、表面に粘性はない。子実層はしわ状で平滑。肉質はややなめし皮状で弾力がある。柄は中空。色は全体が白色から淡朱橙色。

分 布： 北アメリカ (東部)、日本。県内では、いなべ市、松阪市、大台町、伊賀市、名張市などで確認されている。

現況・減少要因： 本種は、下草や腐植質の少ないアカマツ林が主な生育地であるため、マツ材線虫病の被害などによりアカマツ林が減少したことに伴い、生育地が激減している。

保護対策： アカマツ林の保全、生育地の保護などが必要である。

文 献： 4. 5. 8. 17. 18. 22.



(西井孝文)

ブクリョウ

タマチョレイタケ目ツガサルノコシカケ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Wolfiporia extensa (Peck) Ginns

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であるが、菌核は地中に発生するため、未知の生育地が多いと予測される。

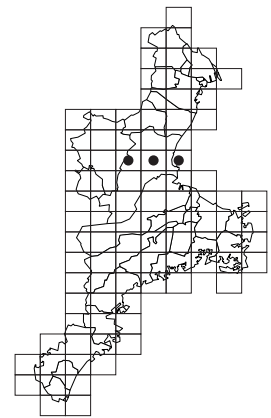
種の概要： 菌核は、伐採されてから3~4年以上経過したマツの切株の地中根に発生し、形状は類球形で、やや堅い。子実体は、切り株の材上等に形成され、背着生で類白色である。

分 布： 北アメリカ、中国、日本 (本州、四国、九州)。県内では津市、松阪市で確認されている。

現況・減少要因： 菌核が確認された生育地は、いずれもマツ材線虫病の被害によりアカマツが伐採された後に一度確認されただけであり、継続的な発生は確認されていない。

保護対策： マツ林の保全、生育地及び生育適地の保護などが必要である。

文 献： 5. 8. 22.



(谷口雅仁)

セミタケ

ボタンタケ目オフィオコルジケプス科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Ophiocordyceps sobolifera (Hill ex Watson) G.H. Sung,

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

J.M. Sung, Hywel Jones & Spatafora

選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、安定した生育地が少ない。

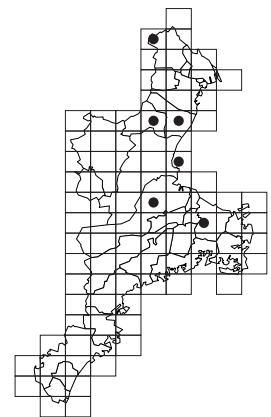
種の概要： 寺社の境内や庭園、林内などで、地中のニイニゼミ幼虫から発生する。地上に出る頭部は棍棒状、単一、あるいは2~3に分岐する。色は淡褐色、表面に胞子の入った組織 (子のう殻) の孔口が細かく点状に並ぶ。基部に花と呼ばれるこぶ状の突起 (分生子体) を伴うこともある。

分 布： 南北アメリカ、オセアニア、セイロン島、マダガスカル、中国、韓国、日本。県内では、いなべ市、亀山市、鈴鹿市、津市、松阪市、伊勢市などで確認されている。

現況・減少要因： 県内の生育地の多くは、公園や神社などの継続的に手入れされてきた環境である。最近では、寄主であるニイニゼミの減少に伴い発生が減少している。

保護対策： 生育適地の保全などが必要である。

文 献： 5. 8. 12. 13. 17. 22.



(三輪秀子)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

キタマゴタケ <i>Amanita javanica</i> (Corner & Bas) T. Oda, C. Tanaka & Tsuda	ハラタケ目テングタケ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
津市、松阪市で確認されているが、他の地域の情報が不足しているため、継続した調査が必要である。 (文献：3. 5. 8. 22.)			
(三輪秀子)			
チャタマゴタケ <i>Amanita similis</i> Boedijn	ハラタケ目テングタケ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
伊勢市の1か所で確認されているが、他の地域の情報が不足しているため、継続した調査が必要である。 (文献：3. 5. 8. 22.)			
(谷口雅仁)			
オシロイシメジ <i>Clitocybe connata</i> (Schumach.) Gillet	ハラタケ目キシメジ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
松阪市の1か所で確認されているが、他の地域の情報が不足しているため、継続した調査が必要である。 (文献：3. 5. 8. 22.)			
(三輪秀子)			
ドクササコ <i>Paralepistopsis acromelalga</i> (Ichimura) Vizzini	ハラタケ目キシメジ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
津市で確認されているが、他の地域の情報が不足しているため、継続した調査が必要である。 (文献：3. 5. 8. 22.)			
(清田卓也)			
ヒョウモンクロシメジ <i>Tricholoma pardinum</i> (Pers.) Quél.	ハラタケ目キシメジ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
大台町で一度確認されているが、他の地域の情報が不足しているため、継続した調査が必要である。 (文献：8. 11.)			
(清田卓也)			
タマノリイグチ <i>Pseudoboletus astraeicola</i> (Imazeki) Šutara	ハラタケ目イグチ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
いなべ市、松阪市で確認されているが、他の地域の情報が不足しているため、継続した調査が必要である。 (文献：3. 5. 8.)			
(三輪秀子)			
オオムラサキアンズタケ <i>Gomphus purpuraceus</i> (Iwade) K. Yokoy.	ラッパタケ目ラッパタケ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
生育地が減少したと推測されるが調査が不足しているため、継続した調査が必要である。 (文献：4. 8. 22.)			
(三輪秀子)			
キイロスッポンタケ <i>Phallus flavocostatus</i> Kreisel	スッポンタケ目スッポンタケ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
大台町の1か所で確認されているが、他の地域の情報が不足しているため、継続した調査が必要である。 (文献：4. 5. 8.)			
(三輪秀子)			
ヌメリアイタケ <i>Albatrellus yasudae</i> (Lloyd) Pouzar	ベニタケ目ニンギョウタケモドキ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：VU
松阪市の1か所で確認されているが、他の地域の情報が不足しているため、継続した調査が必要である。 (文献：4. 5. 8. 22.)			
(清田卓也)			

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

カラストケ <i>Polyozellus multiplex</i> (Underw.) Murrill	イボタケ目イボタケ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：
--	------------	-------------------------------	------

津市の1か所で確認されているが、他の地域の情報が不足しているため、継続した調査が必要である。
(文献：4. 5. 8. 22.)

(西井孝文)

クチキトサカタケ <i>Ascoclavulina sakaii</i> Y. Otani	ビョウタケ目ビョウタケ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：
---	--------------	-------------------------------	------

いなべ市で確認されているが、他の地域の情報が不足しているため、継続した調査が必要である。
(文献：4. 5. 8.)

(三輪秀子)

エツキクロコップタケ <i>Urnula craterium</i> (Schwein.) Fr.	チャワンタケ目クロチャワンタケ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：
---	------------------	-------------------------------	------

いなべ市で確認されているが、他の地域の情報が不足しているため、継続した調査が必要である。
(文献：4. 5. 8. 22.)

(三輪秀子)

アブラゼミタケ <i>Polycephalomyces nipponicus</i> (Kobayasi) Kepler & Spatafora	ボタнтаケ目ノムシタケ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：
--	---------------	-------------------------------	------

東員町で確認されているが、他の地域の情報が不足しているため、継続した調査が必要である。
(文献：8. 12. 15. 16.)

(三輪秀子)

ウスイロタンポタケ <i>Ophiocordyceps gracilioides</i> (Kobayasi) G.H. Sung, J.M. Sung, Hywel Jones & Spatafora	ボタнтаケ目オフィオコルジケプス科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：
---	--------------------	-------------------------------	------

いなべ市で確認されているが、他の地域の情報が不足しているため、継続した調査が必要である。
(文献：5. 8. 12. 15. 16.)

(三輪秀子)

維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

文 献

1. Asai, I. and Asai, Y. 2008. New records of two *Tulostoma* species from Japan. *Mycoscience* 49:399-402.
2. Asai, I., Sato, H. and Nara, T. 2004. *Pseudotulostoma japonicum*, Comb. nov. (= *Battarreia japonica*), A Species of the Eurotiales, Ascomycota. *Bulletin of the National Science Museum Series B (Botany)*, 30 (1):1-7.
3. 今関六也・本郷次雄. 1987. 原色日本新菌類図鑑(I). 保育社, 大阪, 325 pp.
4. 今関六也・本郷次雄. 1989. 原色日本新菌類図鑑(II). 保育社, 大阪, 315 pp.
5. 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄・保坂健太郎・細矢剛・長澤栄史. 2011. 増補改訂新版 日本のきのこ, 山と溪谷社, 東京, 639 pp.
6. 伊藤誠哉. 1955. 日本菌類誌, 2(4). 養賢堂, 東京, 450 pp.
7. 伊藤誠哉. 1959. 日本菌類誌, 2(5). 養賢堂, 東京, 658 pp.
8. 勝本 謙. 2010. 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 舟橋, 1177 pp.
9. きのこウォッチングクラブMIE. 2003. 宮川村総門山で見られるきのこの調査. 三重県, 津, 37 pp.
10. 小林義雄. 1938. 大日本植物誌ヒメノガスター垂目及スッポンタケ垂目. 三省堂, 東京, 90 pp.
11. 工藤伸一・手塚豊・米内山宏. 1998. 青森のきのこ. グラフ青森, 青森, 288 pp.
12. 日本冬虫夏草の会. 2014. 冬虫夏草生態図鑑. 誠文堂新光社, 東京, 303 pp.
13. 奥田貞助. 1995. 三重県における冬虫夏草発生状況. 三重自然誌, 2: 47-50.
14. 奥田貞助. 1996. 伊勢路にも冬虫夏草. 冬虫夏草, 16: 48-49.
15. 清水大典. 1994. 原色冬虫夏草図鑑. 誠光堂新光社, 東京, 381 pp.
16. 清水大典. 1997. カラー版冬虫夏草図鑑. 家の光協会, 東京, 446 pp.
17. 鈴鹿市環境部環境政策課. 2008. 鈴鹿市の自然. 新日本法規出版: 259-295.
18. 高橋 明. 2000. 上野森林公園で見られるきのこ類. 三重県, 津, 53 pp.
19. Wang Qiudeng, Tai Hui Li, Peng Li, and Zhu L. Yang. 2014. A new species of *Amanita* section *Lepidella* from South China. *Mycological Progress* Volume 13, Issue 2, pp. 211-217.
20. Wright, J.E. 1987. The Genus *Tulostoma* (Gasteromycetes) A World Monograph. *BIBLIOTHECA MYCOLOGICA BAND*, 113: 338 pp.
21. 吉見昭一. 1998. 京都御苑の菌類調査による菌類追加の目録. 京都御苑自然現況調査報告第4集, pp. 39-41. 一般財団法人国民公園協会京都御苑, 京都.
22. 幼菌の会・本郷次雄. 2001. カラー版きのこ図鑑. 家の光協会, 東京, 335 pp.

維管束
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD